(二)船場川 姫路競馬場 洪水調節池　だより

第5号
平成29年2月25日
兵庫県中播磨県民センター
姫路土木事務所

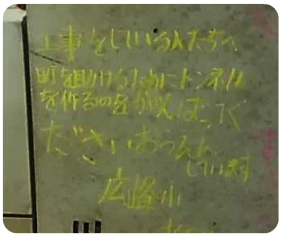
01　小学生（240名）がシールド工事現場を見て･触れて･感じて。

「今しか見られない！」シールド工事の現場見学に、姫路競馬場近くの広峰小学校の4年生･5年生の児童を招待しました。

姫路競馬場の調節池工事について学習してくれたお礼に、建設中の地下導水トンネルの現場を体感してもらいました。

児童たちの「記憶に残る」体験になればと企画しましたが、逆に、現場に残る熱い応援メッセージに無事完成への使命感が高まります。

▲ シールドトンネルの入り口で記念撮影。
この中から未来のまちを守る土木技術者が育つことを期待する筆者。



▲ 励みになる応援メッセージ

神戸新聞（平成29年2月1日朝刊）に取り上げられました。

神戸新聞　（第3種郵便物認可）

姫路競馬場・洪水調節施設　巨大な池、長い地下導水路

町守る仕組みに驚き

県が姫路競馬場（姫路市広峰2）で整備を進める船場川の洪水調節施設で、31日、近くの広峰小学校の児童を招いた見学会があった。増水時に最大12万立方㍍の水をためる。市街地の洪水被害を防ぐ調節池で、児童らはその巨大さと川から水を引き込む地下導水路の長さに驚きの声を上げた。（山崎　竜）

豪雨被害から町や暮らしを守る仕組みを知ってもらおうと、姫路土木事務所が企画。レーストラック内の広場を掘り下げて池を整備し、導水路の建設を進めている。

船場川は同市砥堀付近で市川からわかれ、姫路城の西側を抜けて播磨灘に注ぐ。川幅が狭く、2004年の台風23号による豪雨で水があふれ、約170戸が浸水した。

同事務所は昨年12月、職員を同校に派遣し、「ためる」「流す」「備える」の総合治水の考えと調節池について授業。現場を見てもらおうと、5年生111人を招き、馬場内に設けた巨大な池の底を通って、直径3・5㍍の導水路に入った。

児童らは地中を約300㍍進み、コンクリート片を組み合わせて筒状に壁を組み上げることや、レールを走る資材運搬用の車両について説明を受けた。出口付近の壁にチョークでメッセージを書き、作業の安全を祈った。

同校の鶴本悠之君(11)は「間近で見る競馬場がこんなことになっているとは。ものすごくたくさん水がためられそうで、頼もしい」と話した。

導水路の工事は2月に終了し、完成は春を見込んでいるという。

広峰小 児童見学「頼もしい」

地下の導水路を見学する児童ら　児童らは導水路の壁に作業の安全を祈るメッセージを書き込んだ＝いずれも姫路市広峰2

02　総合治水の「出前講座」できます！

兵庫県では、全国に先立ち、平成24年4月1日に『総合治水条例』を施行し、この条例に基づいて、県･市町･県民が連携した総合治水の普及を目指しています。姫路土木事務所では、この総合治水の取り組みを船場川流域で積極的に進めており、学校や自治会などの県民の皆さんに学習していただける場を提供することができます。わかりやすい内容となるよう若手職員が知恵を絞っています。

▲クイズ形式で「総合治水」を学ぶ広峰小のみんな

▲出前講座で使うスライドの例

みんなでとりくもう『総合治水』　～ながす・ためる・そなえる

大雨から、あなた と まち をまもるために･･･

「総合治水」では、従来の河川改修などの**「ながす」対策**に加え、雨水が川に一気に流れ出さないための**「ためる」対策**や、自分たちや周りの人たちと**「そなえる」ための対策**を組み合わせて治水に取り組んでいます。

総合治水のパンフレットもあります▶

これなあに？　今月の「工事現場から」

2月の調節池は寒かった。流しこみたてのコンクリートをその寒さから守るのが、この「ジェットヒーター」です。

生コンクリートは、固まるときに、暑すぎても、寒すぎても本来の強度を得ることができません。もし生コンが凍結してしまうとボロボロのコンクリートに仕上がってしまいます。現場では、硬化するまで、しっかりと適温に温度管理をしています。少し、過保護ぐらいの世話焼き(笑)が、たくましいコンクリートを育てている今月の現場です。

■船場川のある風景■

（姫路市飯田～手柄 付近）

船場川も長年、河川改修を下流から進めてきました。安全に「ながす」取り組みは非常に時間を費やしますが、現在は、国道2号バイパスの辺りを工事しています。細い川の印象があった船場川は安全に拡幅されて、緩やかな流れを播磨灘に運んでいます。